

## 宣教の情熱

コリントの信徒への手紙Ⅱ 一章16～33節

誰かが弱っているのに、私も弱らずにいられるでしょうか。

誰かがつまづいているのに、私が心を痛めずにいられるでし

ようか。(29)

この箇所には、パウロが宣教のために経験してきた苦難が記されています。このような苦しみに遭いながら、パウロはなぜ福音を伝え続けることが出来たのでしょうか。今日の聖句には、パウロの心の内からほとばしり出る宣教の情熱が語られています。罪を犯し、滅びに向かっていている多くの人々を横目に見ながら、自分分は平気であることなど出来るはずがないとパウロは語るのです。キリストの救いが必要としている人々を目の当たりにするとき、彼は突き動かされるようにして福音を語り続けました。このパウロの思いは、主イエスご自身の私たちに對する思いではないでしょうか。パウロはまさしくキリストの僕でした。パウロのこの情熱を聞くと、私たちの心も熱く燃やされるのではないでしようか。私たちも、滅びに向かう人々の救いのために用いていただくではありませんか。